



## 持続可能な生産・消費を実現するため、 伝統社会が保持していた知恵を 発掘し活用しよう

Revitalising traditional wisdoms on  
sustainable consumption & production

July 13, 2010

加藤三郎 (NPO法人環境文明21 共同代表)

Saburo Kato

Chairerson, Japan Association of Environment and  
Society for the 21th Century (JAES21)

1

NPO法人 環境文明21

### 1. 何故「持続可能な生産・消費」を問題にするのか？

Why sustainable consumption & production matters?

・世界の人口や経済規模が急速に拡大する中であって、地球という空間の有限性が多くの人に実感されるようになった。

・具体的には

○環境(大気、水、土、生物)の制約

○資源(化石燃料、食料、鉱物等)の制約

○価値観の揺らぎ、混乱

・世界中でこのような状況をもたらした大量生産、大量消費、大量廃棄のパターンは、もはや持続可能ではないとの認識と危機感を多くの人が共有し、持続可能な生産、消費の在り方の探究が開始された。

2

NPO法人 環境文明21

## 2. 何が大量生産・大量消費・大量廃棄をもたらしたか What brought about mass production/consumption/disposal?

・科学技術の止まることのない発展

・自由な競争市場の形成と拡大

・欲望の肯定 (←宗教・倫理感覚の後退)

・強い「成長」願望

## 3. 江戸時代以前、西洋文明が流入する前の日本には、 無限に膨張する欲望を抑える知恵があった Japanese wisdoms before Westernization to restrain limitless desires

その前提には

・豊かな自然に恵まれた国土

・仏教・神道・儒教・道教などに培われた国民の  
価値観・倫理意識

・鎖国政策により半ば鎖された空間

このような政治的、文化的、経済的環境の中で次のよ  
うな8つの知恵が育まれ保持された。

## 8つの知恵

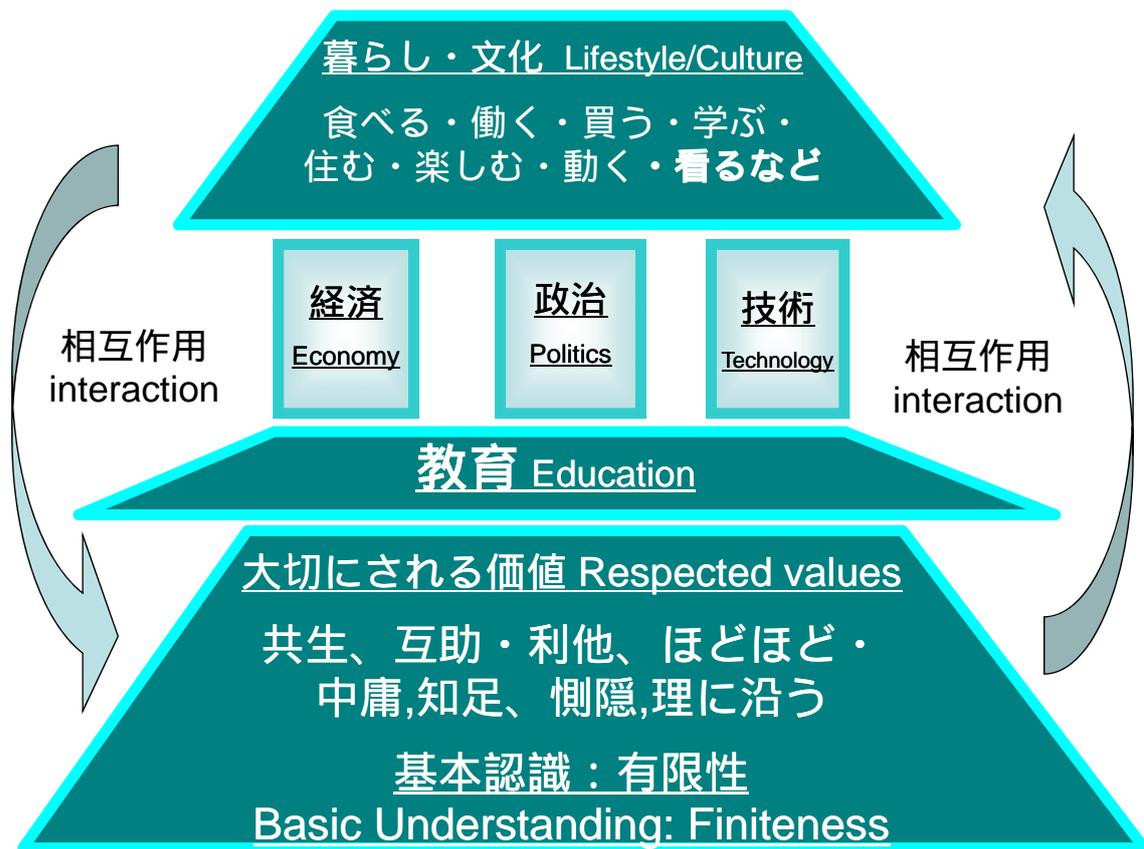
The eight wisdoms in traditional Japanese societies

1. モノへの執着より精神的な豊かさや心の平安を重視していた
2. 自然と同化し、自然との共生の精神を基盤にしていた
3. 足るを知る、自足の心を持っていた
4. 輪廻、循環思想が根付いていた
5. 調和を大切にし、家や地域などの集団の存続を重視していた
6. 精神の自由を尊ぶ気風があった
7. 先祖崇拝や先人を大切にすることで命や暮らしをつないでいた
8. 教育の価値を認め、次世代を愛し育てることに熱心だった

## 4. 何が必要か？

What is required today?

- ・21世紀に真の「持続可能な生産・消費パターン」を実現するためには、省エネやリサイクル(再資源化)のための技術や法制度を発展させるだけでは足りない。
- ・人々の価値観や精神的基盤を、上述の8つの知恵を足掛かりとして、たて直す必要がある。
- ・持続可能な生産・消費を実現するとは、持続可能な文明社会を作ることには他ならない。(私たちはそのような社会を「環境文明社会」と呼んでいる。)
- ・その構造は、次のようなものと構想している。



持続可能な生産・消費を促す知恵は、アジア、パシフィックには、  
 今でも潜在している筈。  
 それを発掘し、21世紀の国づくり、地域づくりに活用しよう。

Wisdoms fostering sustainable consumption & production can be  
 further learned from, and utilized in Asia & Pacific societies.